

岡山県感染症週報 2016年 第1週 (1月4日～1月10日)

岡山県は『インフルエンザ注意報(流行シーズン入り)』を発令しました(1月14日発令)

◆2016年 第1週(1/4～1/10)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第52週 5類感染症 急性脳炎 1名(小学生 男)
- 第53週 4類感染症 レジオネラ症 1名(60代 男)
- 第1週 2類感染症 結核 1名(30代 女)
- 4類感染症 レジオネラ症 1名(70代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

- インフルエンザは、県全体で129名(定点あたり0.65→1.54人)の報告があり、前週より増加しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で444名(定点あたり8.87→8.22人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。
- RSウイルス感染症は、県全体で66名(定点あたり0.93→1.22人)の報告があり、前週より増加しました。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で72名(定点あたり0.67→1.33人)の報告があり、前週より増加しました。
- 流行性耳下腺炎は、県全体で82名(定点あたり0.83→1.52人)の報告があり、前週より増加しました。

【第2週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が2施設でありました。(1月12～13日)

1. **インフルエンザ**は、県全体で129名(定点あたり0.65→1.54人)の報告があり、前週より増加しました。定点あたり報告数が、インフルエンザ注意報発令基準の1.00人を上まわったことから、1月14日、岡山県は「**インフルエンザ注意報(流行シーズン入り)**」を発令し、広く注意を呼びかけることとしました。過去10年間のシーズンと比較して2番目に遅い流行入りです。地域別では、倉敷市(2.25人)、美作地域(2.20人)、備中地域(1.92人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、真庭以外の全ての地域で増加しています。県内の発生状況など詳しくは、「**インフルエンザ週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で444名(定点あたり8.87→8.22人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備北地域(11.50人)、倉敷市(11.00人)、美作地域(8.50人)の順で定点あたり報告数が多くなっていきます。県内の発生状況など詳しくは、「**感染性胃腸炎週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
3. **RSウイルス感染症**は、県全体で66名(定点あたり0.93→1.22人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、岡山市(1.57人)、美作地域(1.50人)、倉敷市(1.45人)の順で定点あたり報告数が多くなっていきます。この感染症は、乳児が感染すると重症化する恐れがありますが、悪化しても平熱か38℃以下のことが多いため、お子さんの様子に注意することが必要です。熱が下がっても症状が改善せず、ゼイゼイとのが鳴るなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。特に乳児がいる家庭では、感染予防に努めるとともに、ひきつづき今後の県内の発生状況に注意してください。
4. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で72名(定点あたり0.67→1.33人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、倉敷市(3.09人)、真庭地域(1.50人)、美作地域(1.33人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。例年、冬季に患者が多く報告されますので、今後の県内の発生状況に注意し、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
5. **流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)**は、県全体で82名(定点あたり0.83→1.52人)の報告があり、前週より増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多い状態です。地域別では、岡山市(2.93人)、備北地域(2.25人)、美作地域(2.17人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、予後は一般に良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあり、年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。有効な薬剤はなく、治療は対症療法が中心となります。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★
感染性胃腸炎		★★	水痘		
手足口病			伝染性紅斑		★★★★★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ			流行性耳下腺炎		★★★★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★★★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2倍以上の減少 : 1.1~2倍未満の減少 : 1.1未満の増減
 : 1.1~2倍未満の増加 : 2倍以上の増加
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
空白:発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

インフルエンザ週報 2016年 第1週 (1月4日～1月10日)

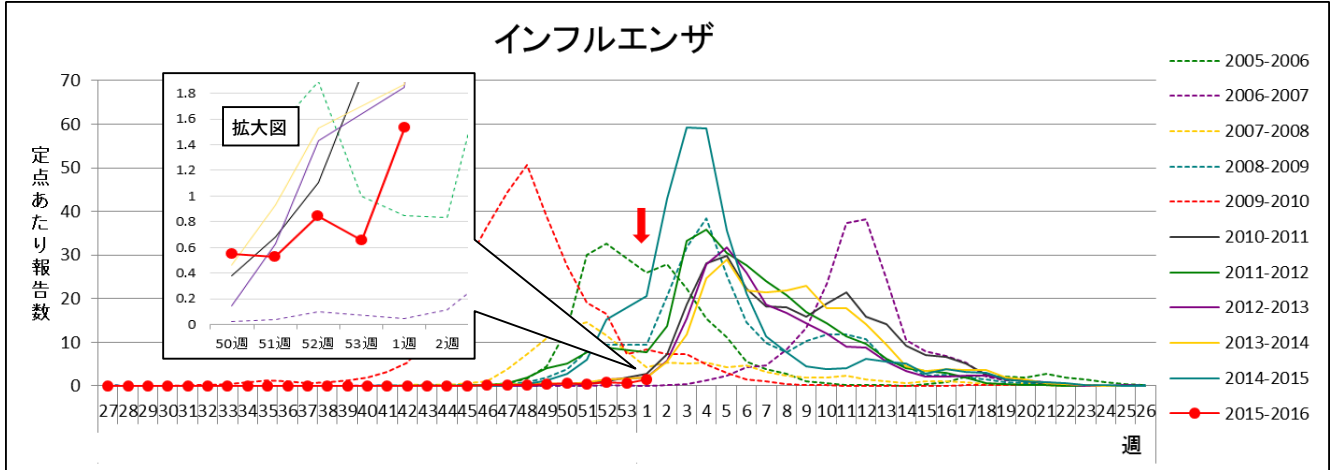
岡山県は『インフルエンザ注意報(流行シーズン入り)』を発令しました(1月14日発令)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で129名の報告がありました(84定点医療機関報告)。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者1名の報告がありました。

【第2週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が2施設でありました(1月12～13日)



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で129名(定点あたり0.65 → 1.54人)の報告があり、前週より増加しました。定点あたり報告数が4人と、インフルエンザ注意報発令基準の1.00人を上まわったことから、1月14日、岡山県は「インフルエンザ注意報(流行シーズン入り)」を発令し、広く注意を呼びかけることとしました。過去10年間のシーズンと比較して2番目に遅い流行入りです。地域別では、倉敷市(2.25人)、美作地域(2.20人)、備中地域(1.92人)の順で、定点あたり報告数が多くなっており、真庭以外の全ての地域で増加しています。第2週(1/11～)には学校等の臨時休業が報告されており、新学期の始まりとともに今後の患者増加が懸念されます。『外出後や食事前の手洗いを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『十分な睡眠を取る。』など、感染予防に努めましょう。

第53週全国集計によると、全国の定点あたり報告数は0.89人であり、前週(0.76人)より増加しました。都道府県別では、秋田県(7.55人)、沖縄県(6.09人)、北海道(2.71人)の順で、定点あたり報告数が多くなっています。

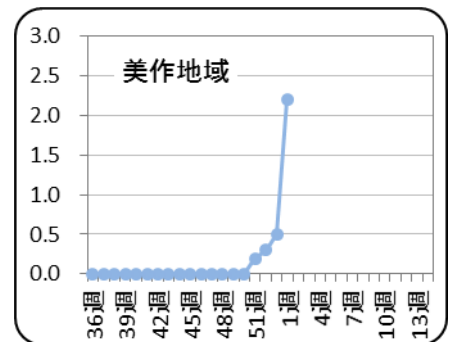
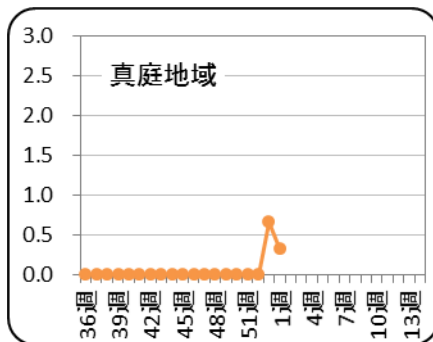
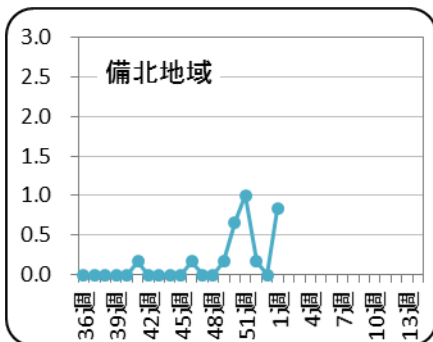
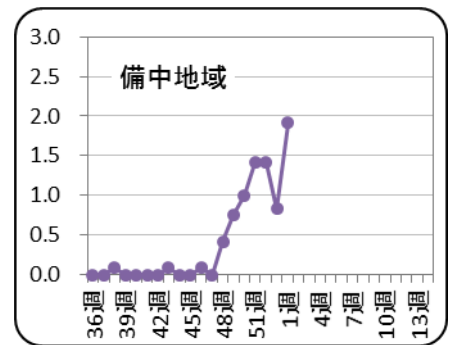
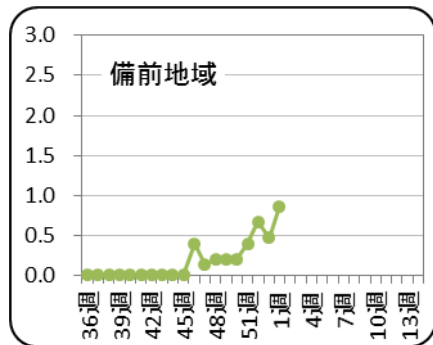
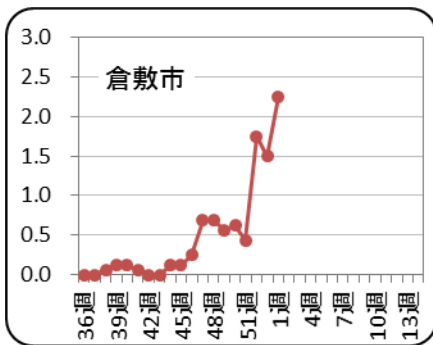
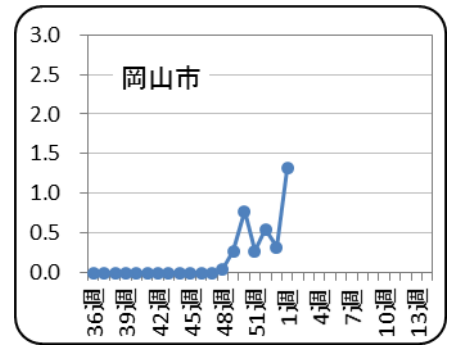
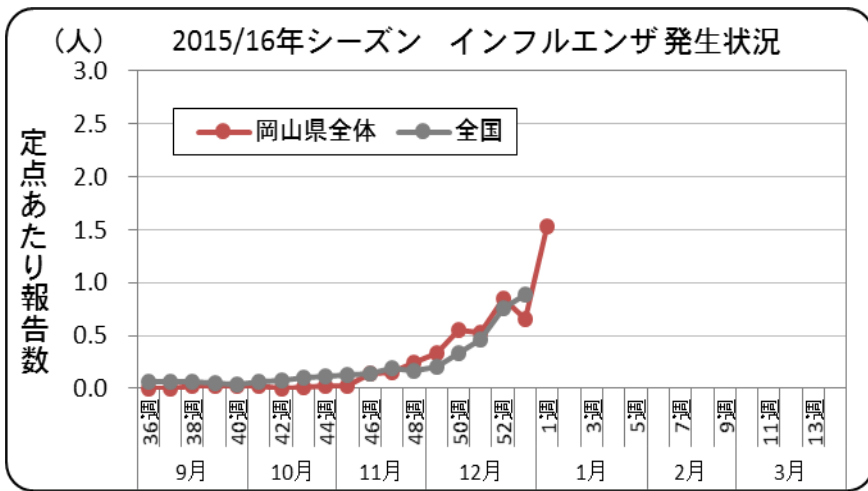
[平成27年第53週 インフルエンザの発生状況について\(厚生労働省\)](#)
[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

1.地域別発生状況

前週からの推移(単位:人)

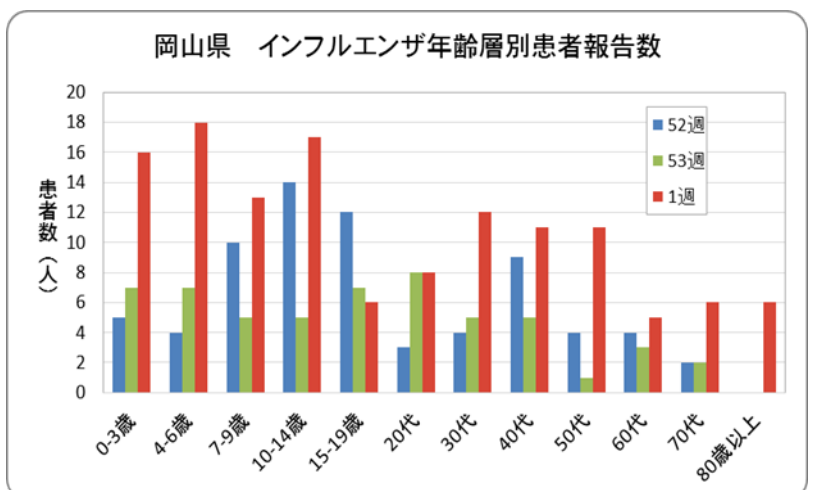
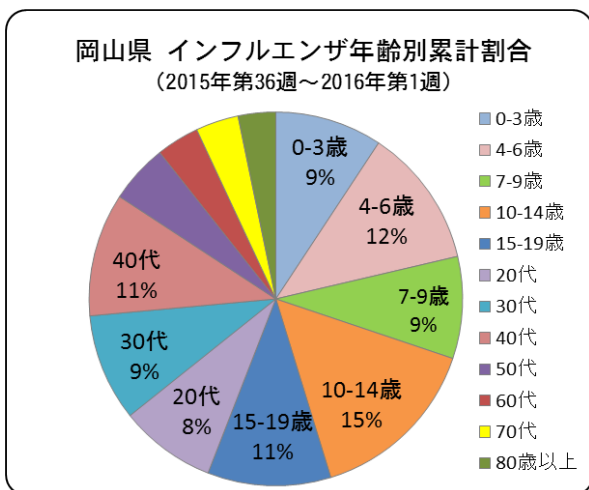
地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	129	↑	備中	患者数	23	↑
	定点あたり	1.54			定点あたり	1.92	
岡山市	患者数	29	↑	備北	患者数	5	↑
	定点あたり	1.32			定点あたり	0.83	
倉敷市	患者数	36	↗	真庭	患者数	1	↓
	定点あたり	2.25			定点あたり	0.33	
備前	患者数	13	↗	美作	患者数	22	↑
	定点あたり	0.87			定点あたり	2.20	

【記号の説明】 前週からの推移
 ↓ : 2倍以上の減少 ↘ : 1.1～2倍未満の減少 → : 1.1未満の増減
 ↗ : 1.1～2倍未満の増加 ↑ : 2倍以上の増加



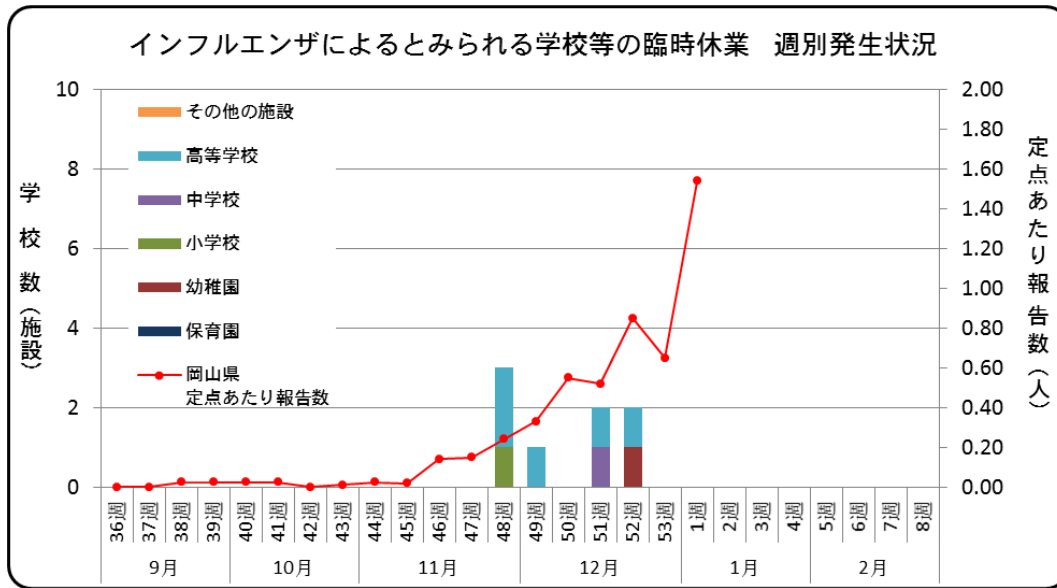
2. 年齢別発生状況

今シーズン（2015年8月31日～）の年齢別累計割合は、10-14歳 15%、4-6歳 12%、15-19歳・40歳代 各11%の順で高くなっています。第1週には、幅広い年齢層で、患者報告数が増加しました。



3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	0	81	0	66	0	8	—	—	0	1	0	7	H27.11.24
岡山市	0	9	0	6	0	1	—	—	—	—	0	1	H27.11.24
倉敷市	0	29	0	26	0	3	—	—	0	1	0	2	H27.12.15
備前地域	0	9	0	7	0	1	—	—	—	—	0	1	H27.11.24
備中地域	0	34	0	27	0	3	—	—	—	—	0	3	H27.11.24
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

2) 臨時休業施設数の内訳

第1週：0施設

累計：8施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	1	0	1	0	1	0	5	—	—

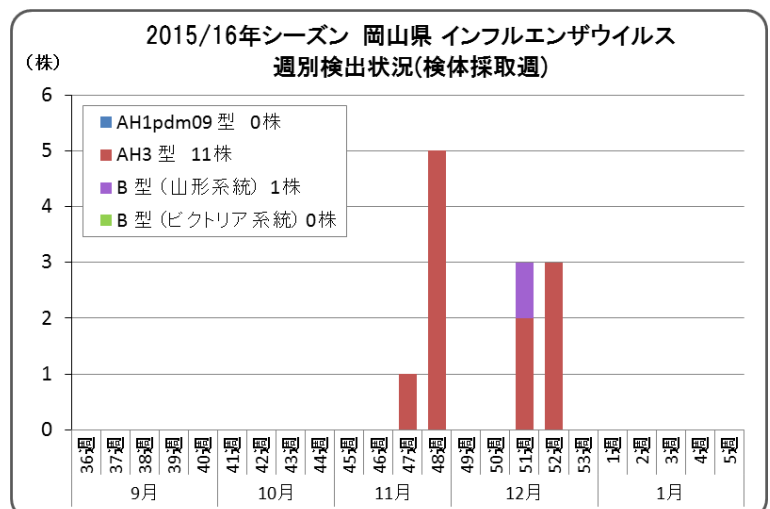
4. インフルエンザウイルス検出状況

第1週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型11株(92%)、B型(山形系統)1株(8%)となっています。

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型117株(43%)、B型79株(29%)、AH1pdm09型75株(28%)となっています。(2016年1月8日現在)

[インフルエンザウイルス分離・検出速報](#)

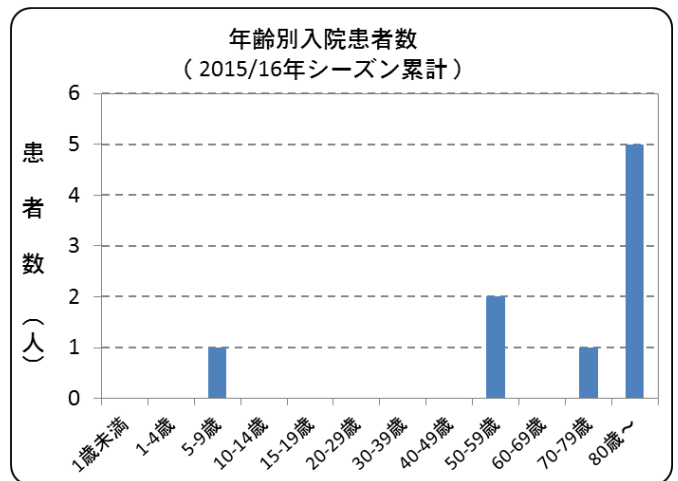
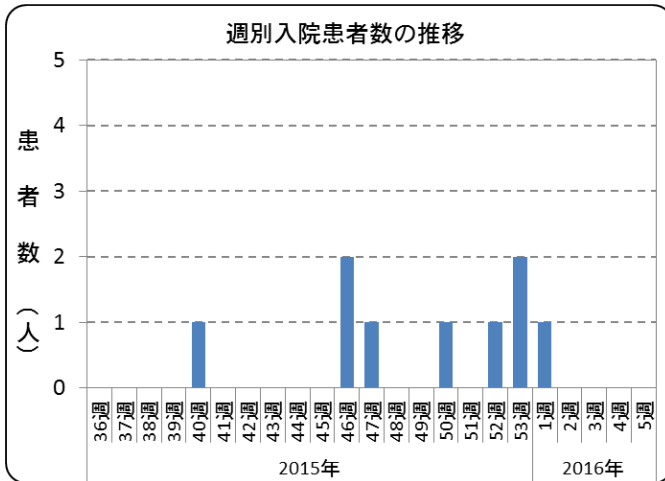
(国立感染症研究所)



5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、1 名（80 歳以上）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 1 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数												1	1
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査 (予定含)													
いずれにも該当せず												1	1

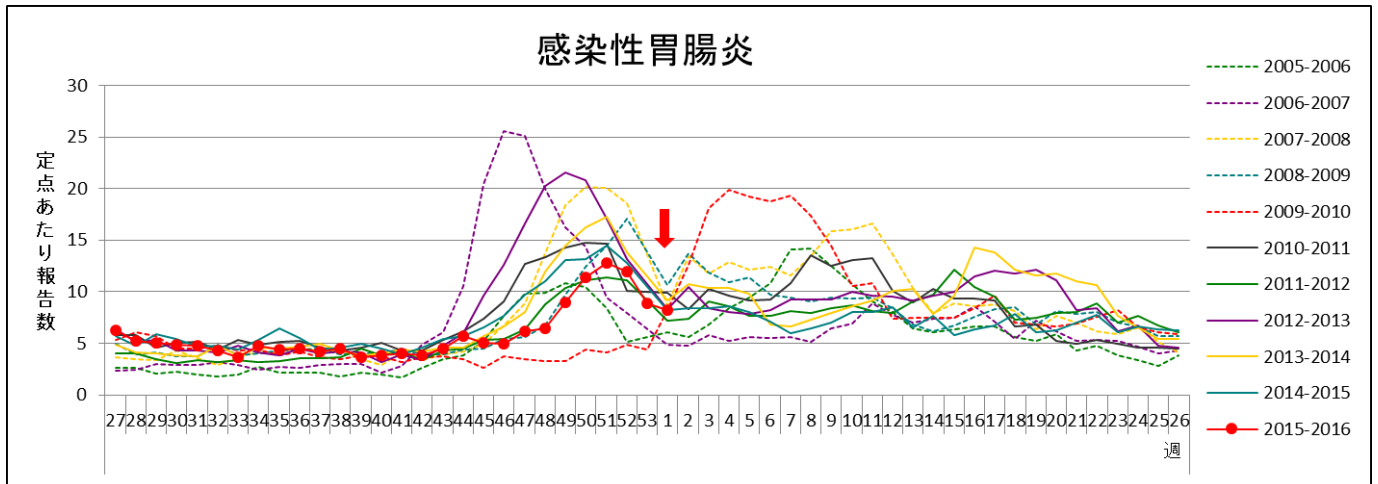
【2015 年 8 月 31 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数			1						2		1	5	9
ICU 入室			1						1				2
人工呼吸器の利用			1						1		1		3
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査 (予定含)													
脳波検査 (予定含)			1										1
いずれにも該当せず												5	5

* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2016年 第1週 (1月4日 ~ 1月10日)

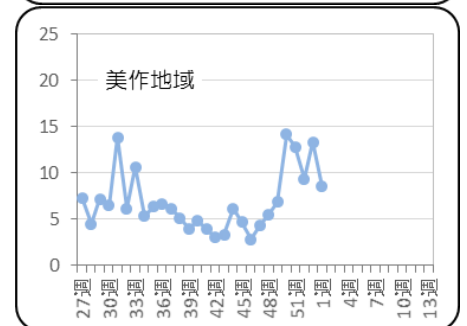
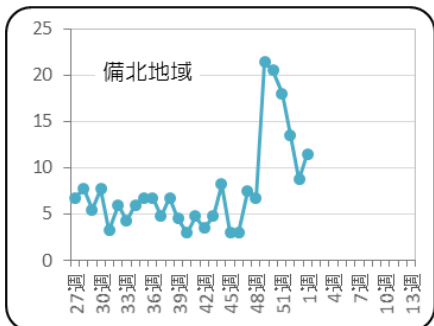
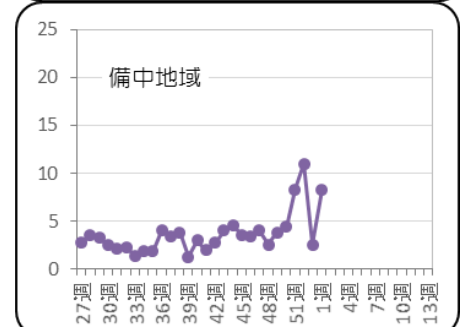
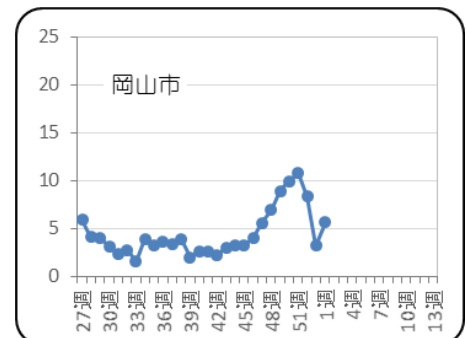
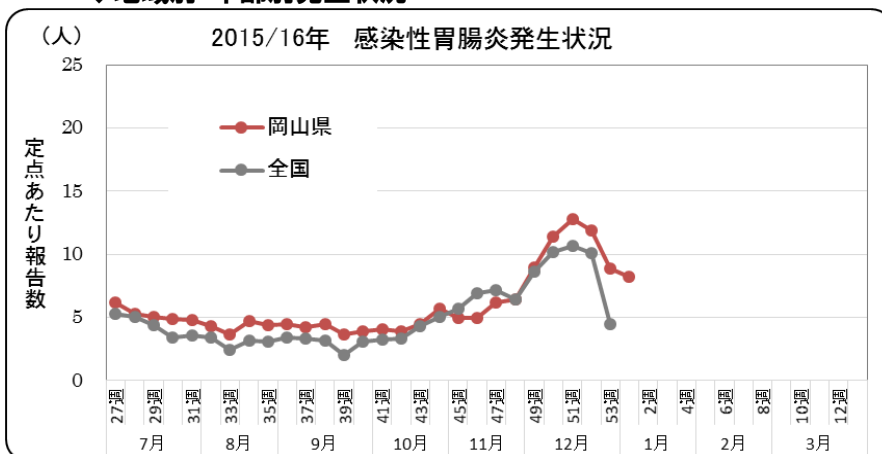
○感染性胃腸炎は、県全体で444名（定点あたり8.87 → 8.22人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。



※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で444名（定点あたり8.87 → 8.22人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。県全体の報告数は12月に比べて減少したものの、依然として多くの患者が報告されています。冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。また、小さなお子さんや高齢者の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

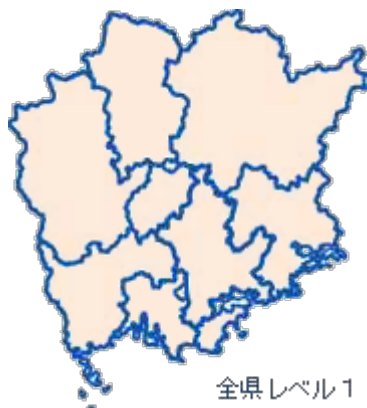
◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、備北地域（11.50人）、倉敷市（11.00人）、美作地域（8.50人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

年齢別割合では、0-2歳が38%と最も高く、次いで20歳以上 21%、3-5歳 17%の順となっています。

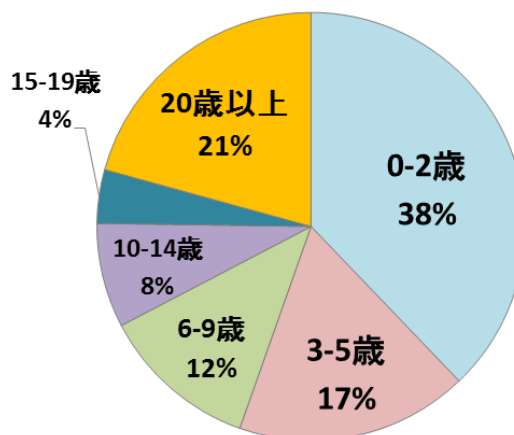
感染性胃腸炎感染症マップ 2016年1週



レベル3		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
20	12	0 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。

感染性胃腸炎 年齢別割合 (第1週)



◆◆ ノロウイルスに感染しないためには ◆◆

1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。アルコールは、ノロウイルスに対して消毒効果が低いとされています。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**の消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

保健所別報告患者数（定点把握）2016年1週（2016/01/04～2016/01/10）

2016年1月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	129	1.54	29	1.32	36	2.25	13	0.87	23	1.92	5	0.83	1	0.33	22	2.20
RSウイルス感染症	66	1.22	22	1.57	16	1.45	10	1.00	7	1.00	2	0.50	-	-	9	1.50
咽頭結膜熱	16	0.30	9	0.64	2	0.18	-	-	-	-	1	0.25	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	72	1.33	16	1.14	34	3.09	2	0.20	6	0.86	3	0.75	3	1.50	8	1.33
感染性胃腸炎	444	8.22	79	5.64	121	11.00	74	7.40	58	8.29	46	11.50	15	7.50	51	8.50
水痘	37	0.69	15	1.07	8	0.73	-	-	5	0.71	-	-	-	-	9	1.50
手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	25	0.46	16	1.14	4	0.36	1	0.10	-	-	-	-	-	-	4	0.67
突発性発疹	14	0.26	4	0.29	3	0.27	2	0.20	2	0.29	2	0.50	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	82	1.52	41	2.93	6	0.55	11	1.10	1	0.14	9	2.25	1	0.50	13	2.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	18	1.50	7	1.40	5	1.25	4	4.00	2	2.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2016年1週（2016/01/04～2016/01/10）

2016年1月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	129	1.54	29	1.32	36	2.25	13	0.87	23	1.92	5	0.83	1	0.33	22	2.20
咽頭結膜熱	16	0.30	9	0.64	2	0.18	-	-	-	-	1	0.25	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	72	1.33	16	1.14	34	3.09	2	0.20	6	0.86	3	0.75	3	1.50	8	1.33
感染性胃腸炎	444	8.22	79	5.64	121	11.00	74	7.40	58	8.29	46	11.50	15	7.50	51	8.50
水痘	37	0.69	15	1.07	8	0.73	-	-	5	0.71	-	-	-	-	9	1.50
手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	25	0.46	16	1.14	4	0.36	1	0.10	-	-	-	-	-	-	4	0.67
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	82	1.52	41	2.93	6	0.55	11	1.10	1	0.14	9	2.25	1	0.50	13	2.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	18	1.50	7	1.40	5	1.25	4	4.00	2	2.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第1週 2016/01/04~2016/01/10)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	129	1	1	6	6	2	11	2	5	5	2	6	17	6	8	12	11	11	5	6	6

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	66	19	19	17	5	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	16	-	2	6	-	4	1	-	-	1	1	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	72	-	1	4	4	5	15	7	8	5	4	6	8	-	5
感染性胃腸炎	444	10	33	81	44	37	27	14	16	15	9	13	35	18	92
水痘	37	-	-	3	8	5	5	5	5	4	-	-	2	-	-
手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	25	-	1	-	-	1	2	7	3	3	3	1	4	-	-
突発性発疹	14	2	3	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	82	-	-	2	5	14	14	13	12	8	3	1	6	2	2

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	18	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	3	5	2	1	3	1

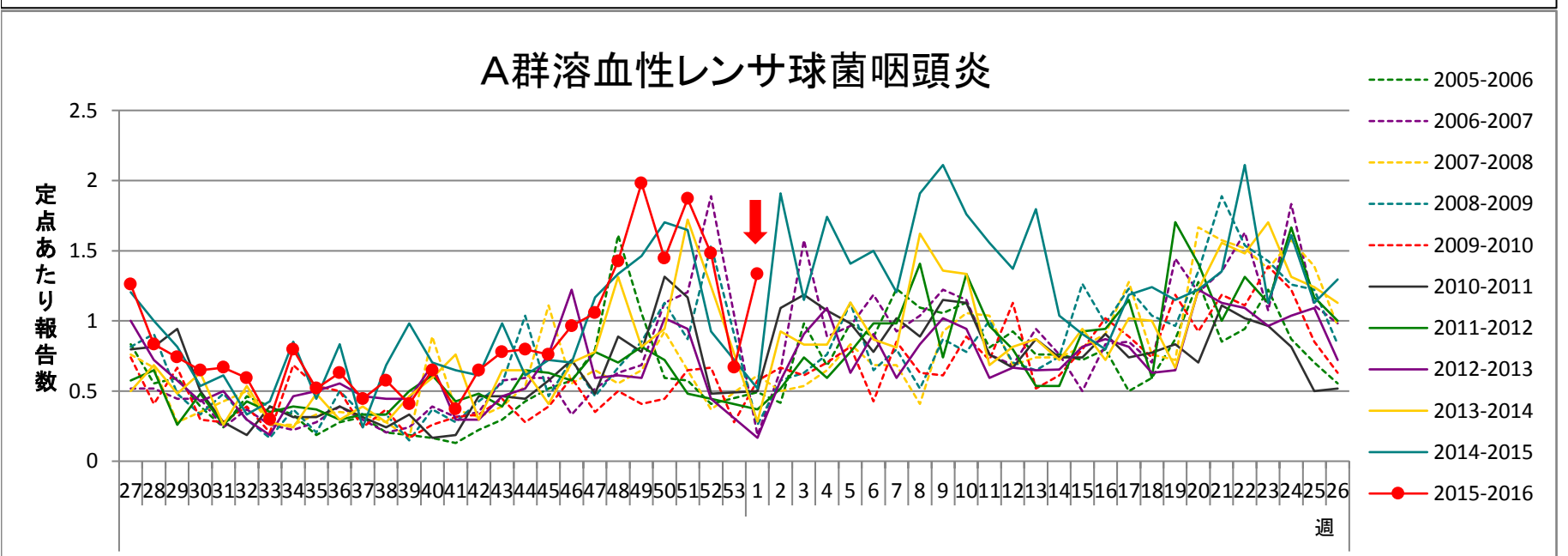
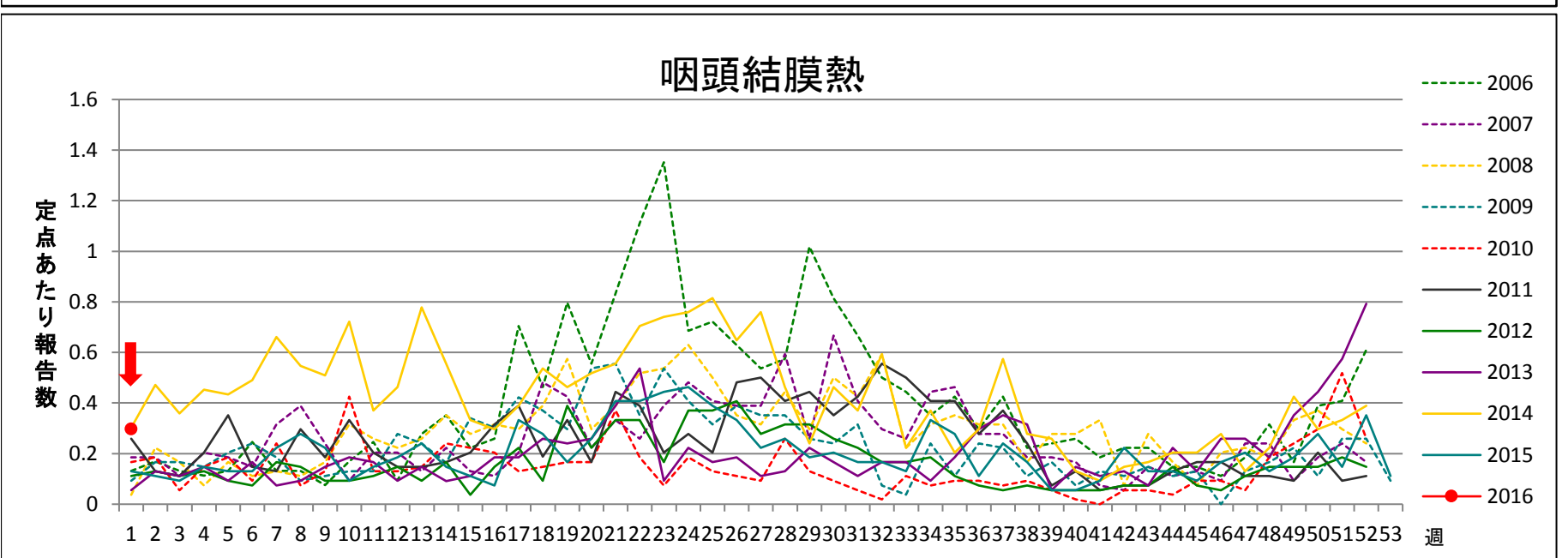
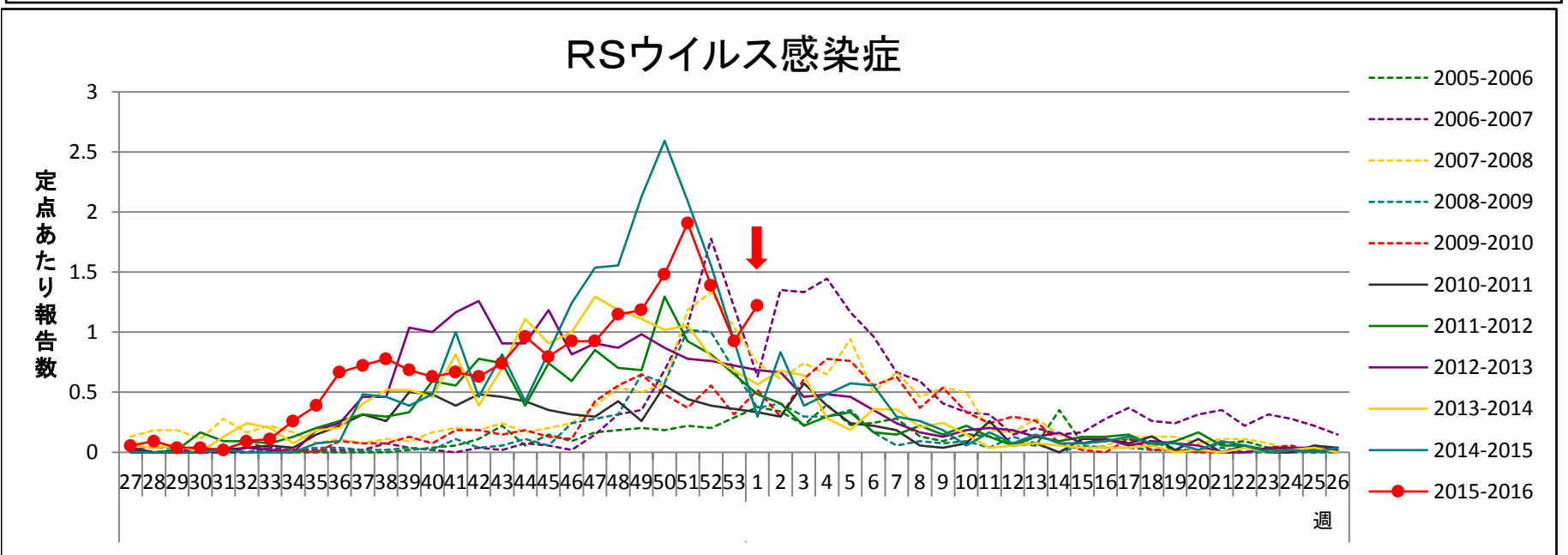
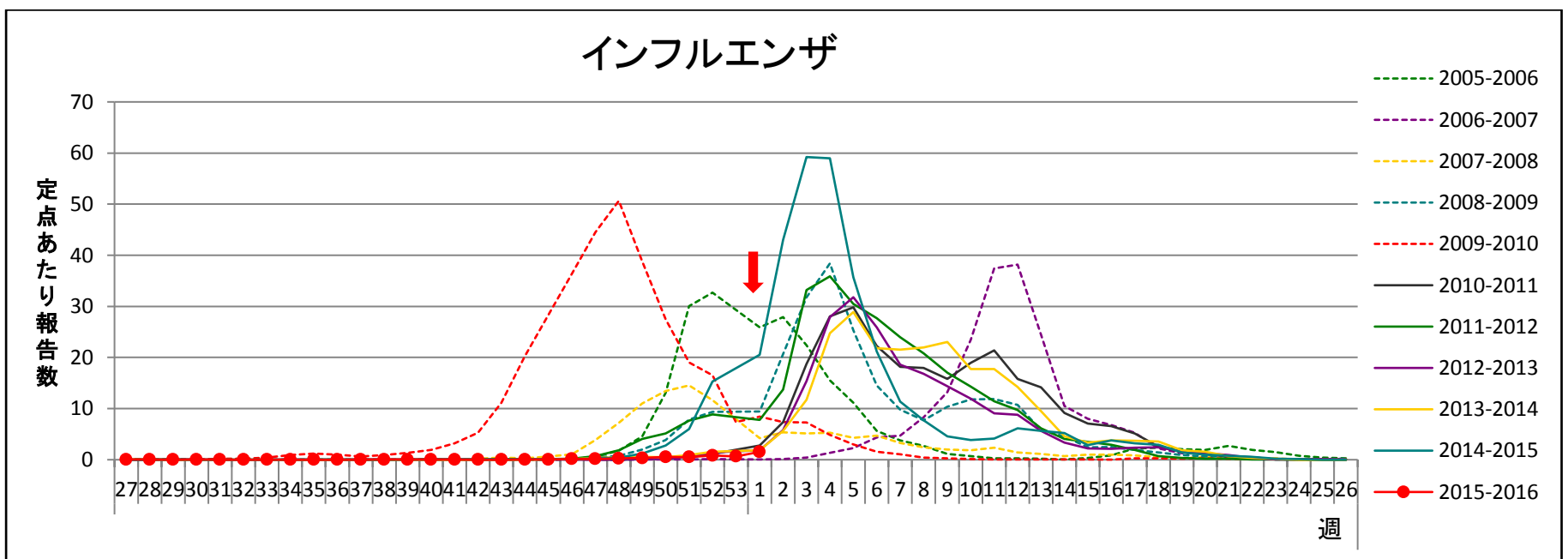
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

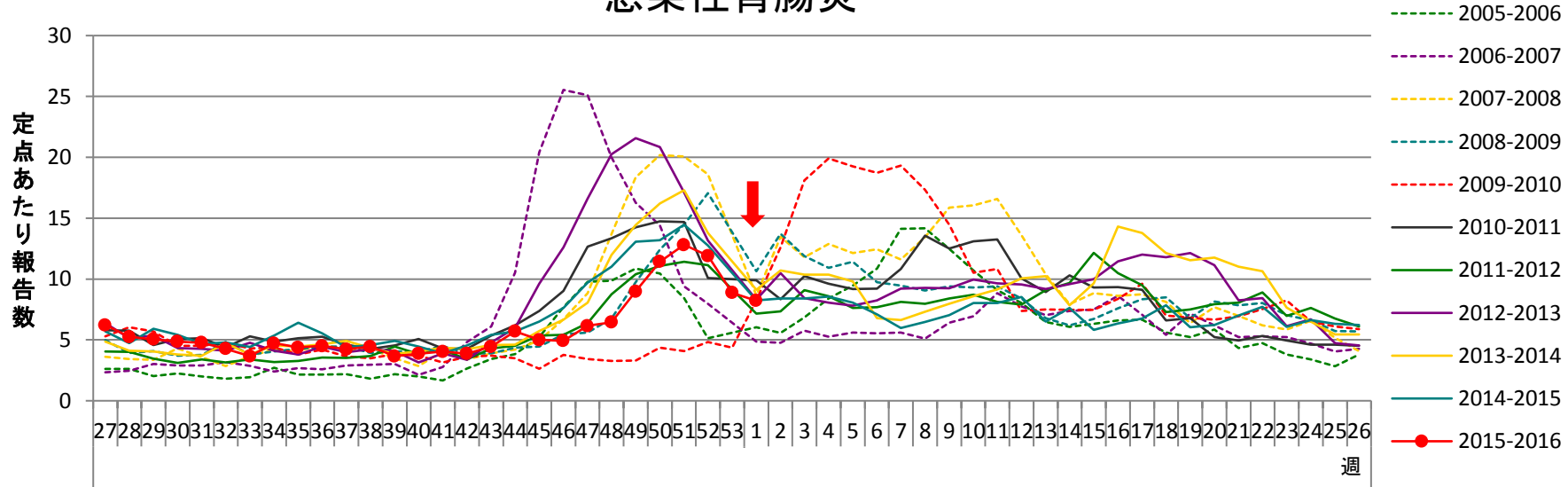
全数把握 感染症患者発生状況

2016年 1週

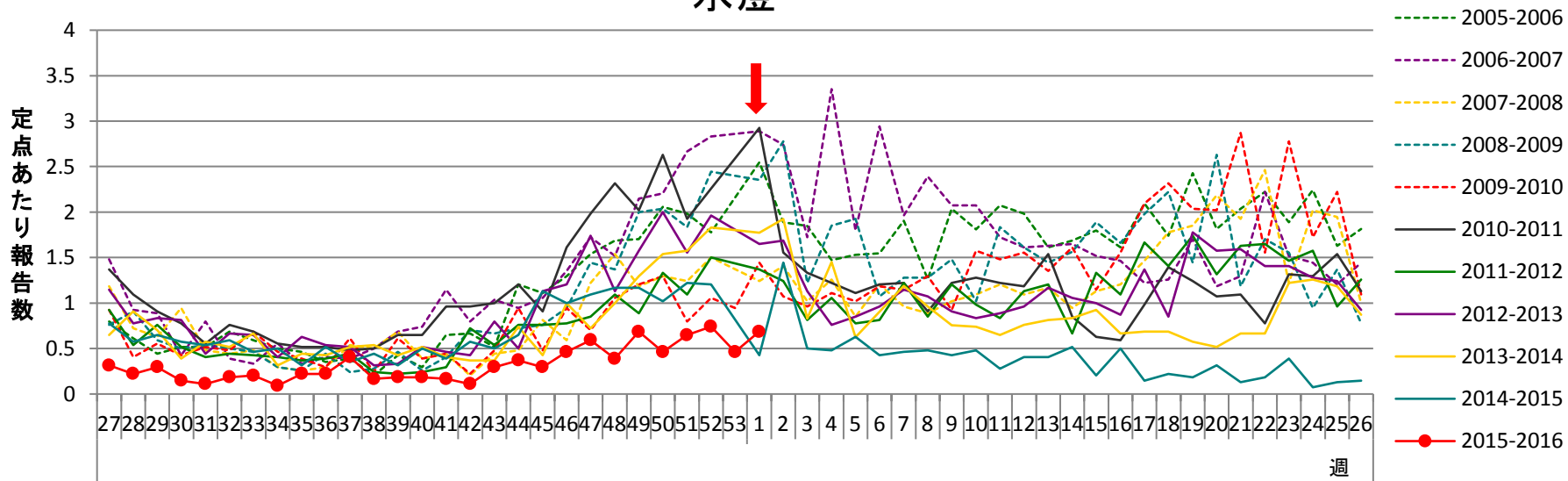
分類	疾病名	2016			疾病名	2016			疾病名	2016		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	1	364	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	2	腸管出血性大腸菌感染症	-	-	63
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	3	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	9
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	-	デング熱	-	-	2
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	2	野兔病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	1	28	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	-	17	ウイルス性肝炎*3	-	-	9	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	-
急性脳炎*4		-	-	14	クリプトスポリジウム症	-	-	1	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	-	2	後天性免疫不全症候群	-	-	20	ジアルジア症	-	-	4
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	-	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	-	35
水痘(入院例に限る。)		-	-	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	-	24
播種性クリプトコックス症		-	-	1	破傷風	-	-	-	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	-	風しん	-	-	-	麻しん	-	-	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-



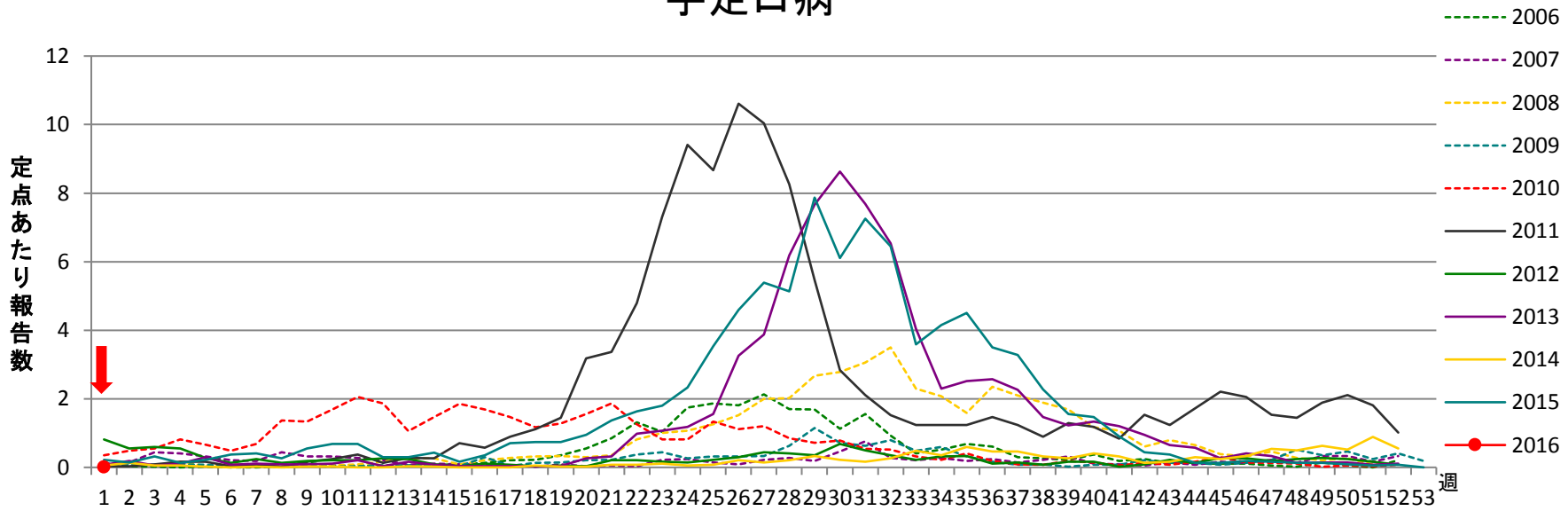
感染性胃腸炎



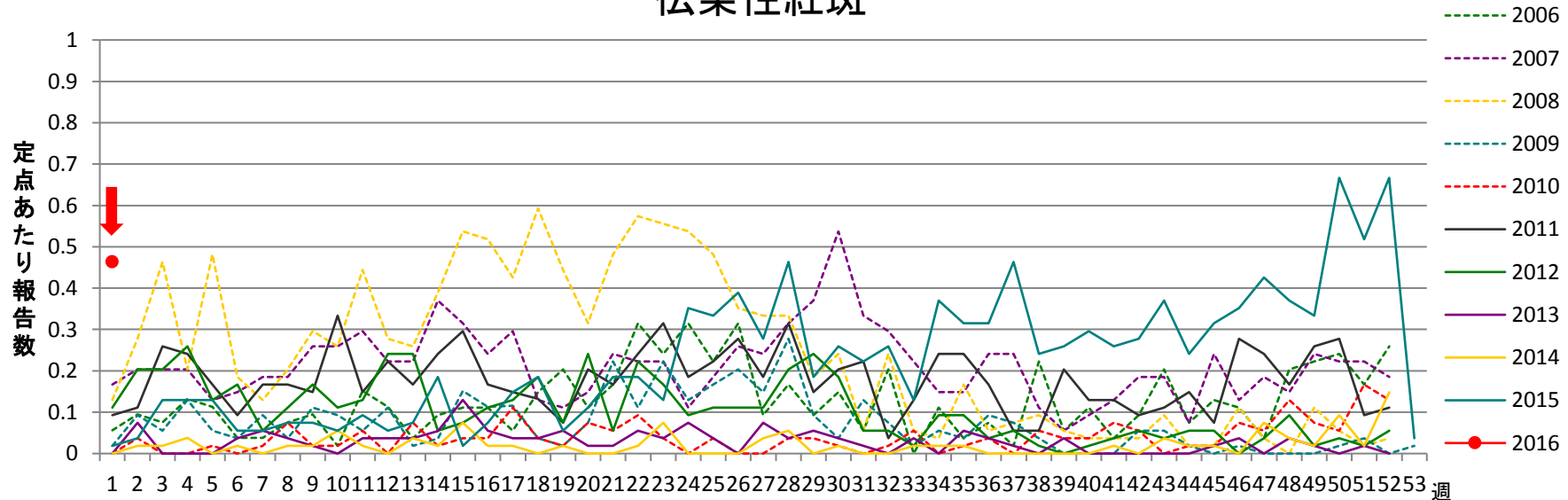
水痘



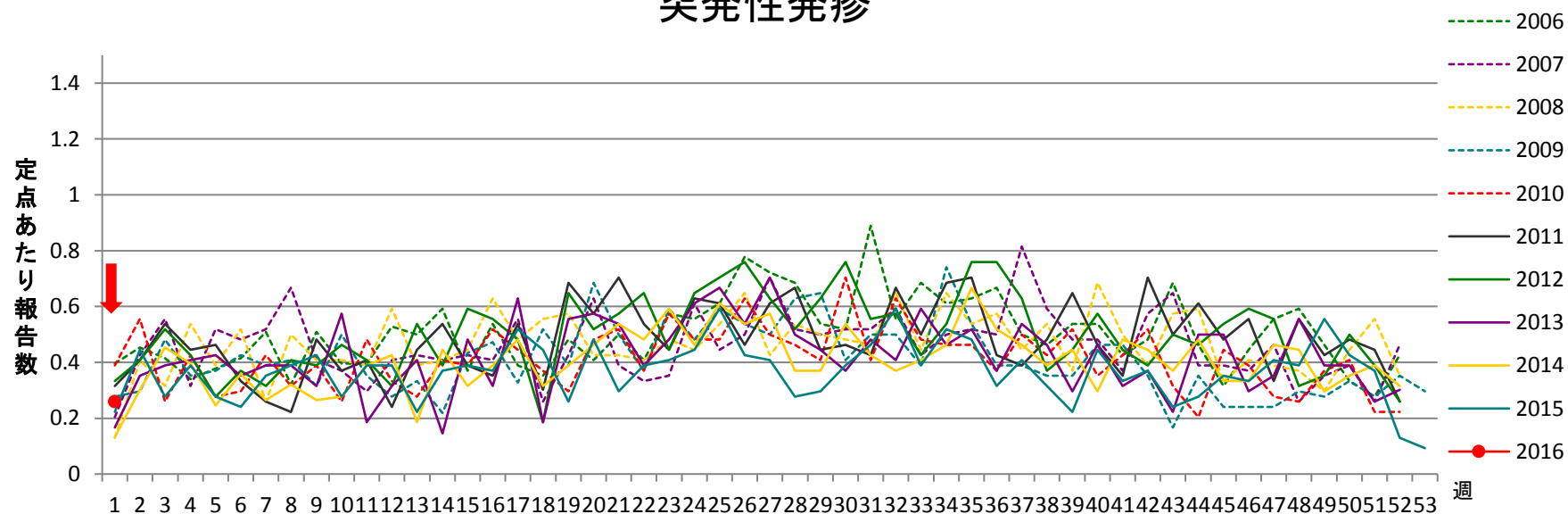
手足口病



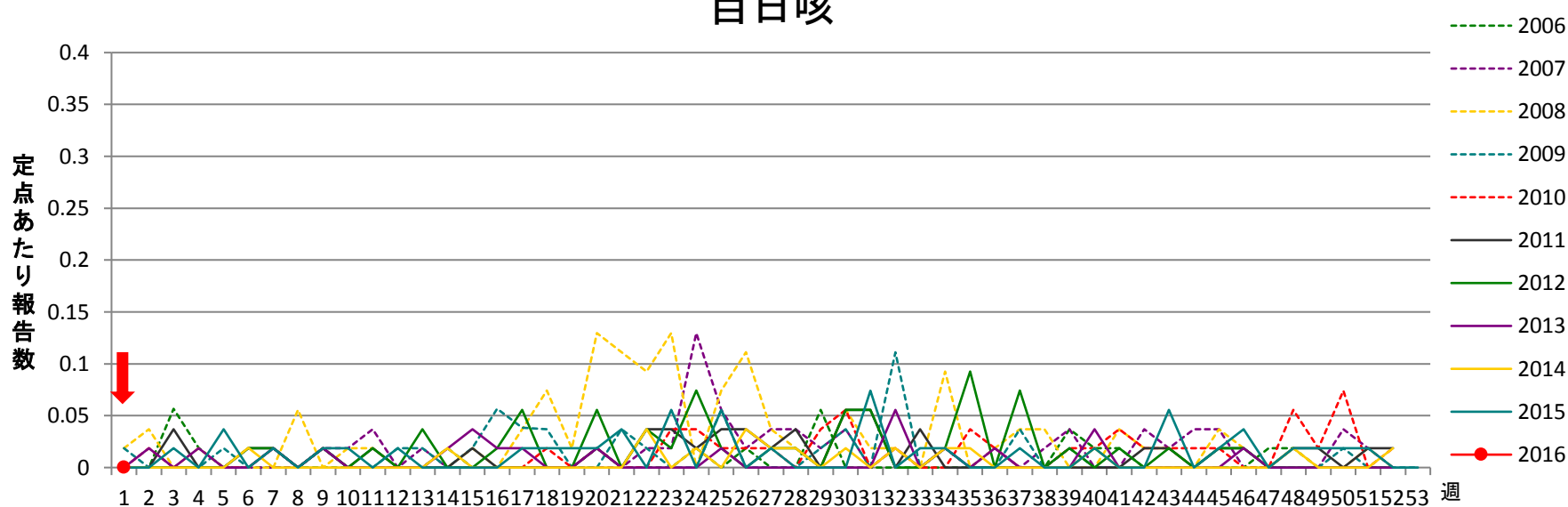
伝染性紅斑



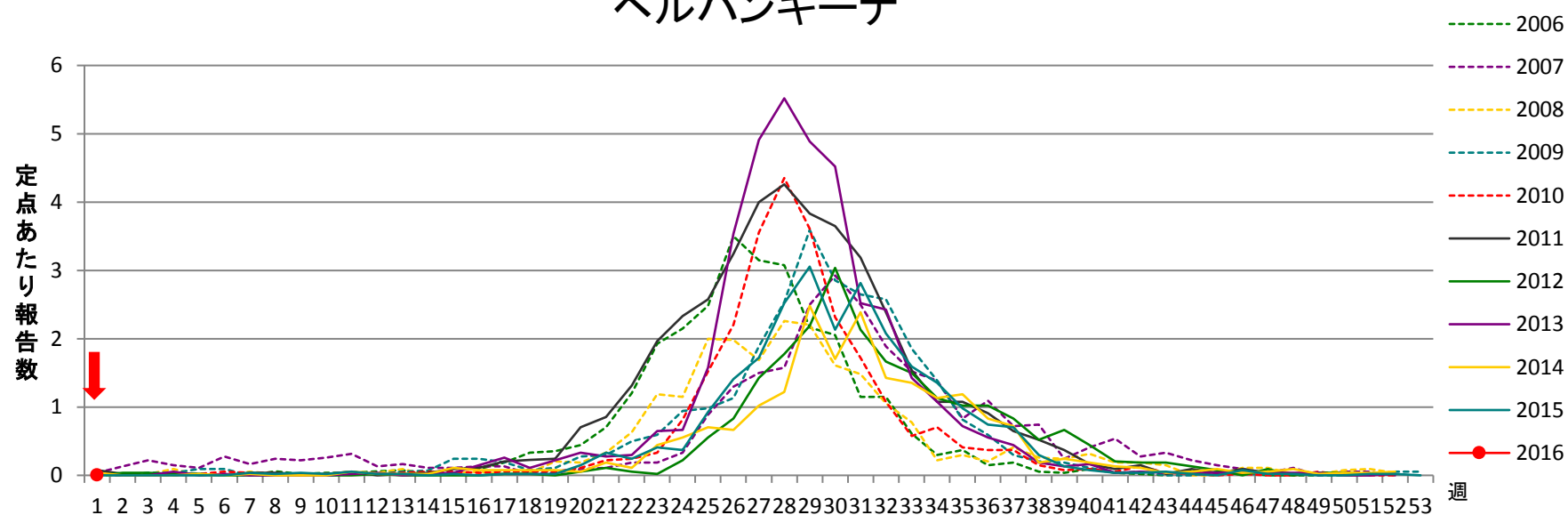
突発性発疹



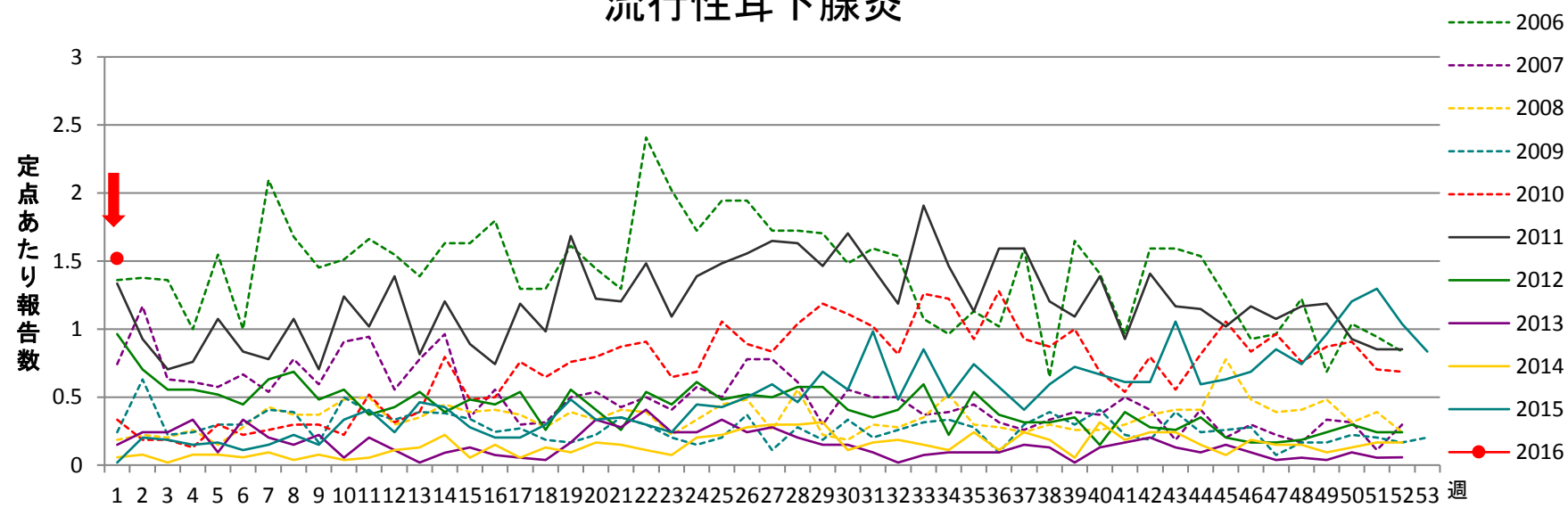
百日咳



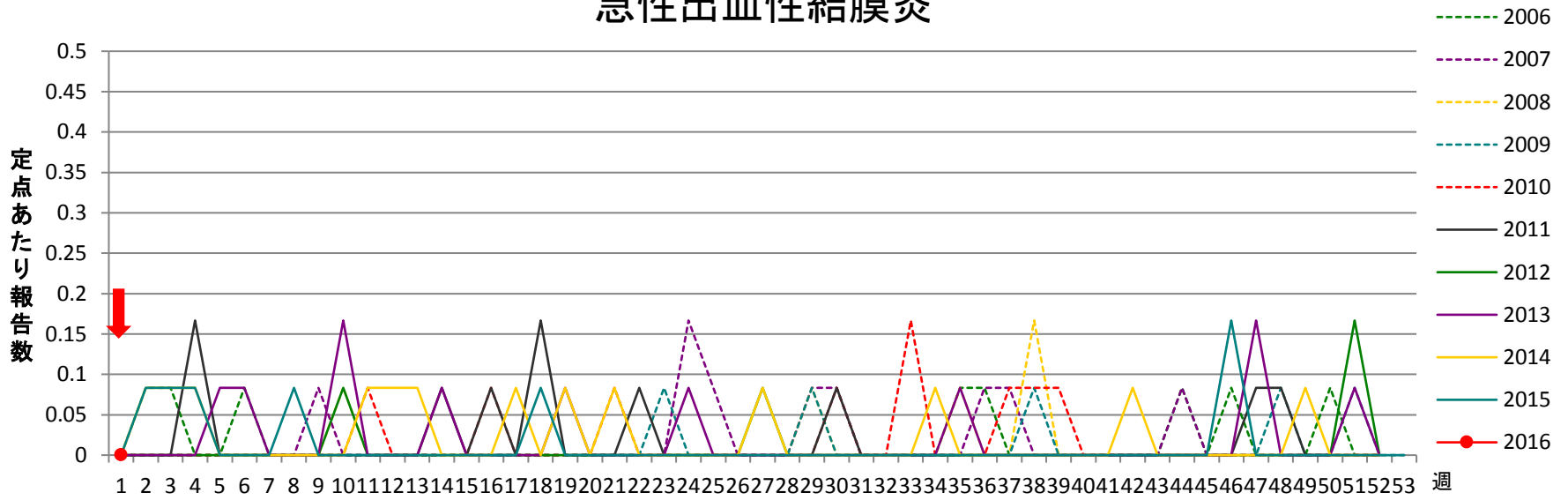
ヘルパンギーナ



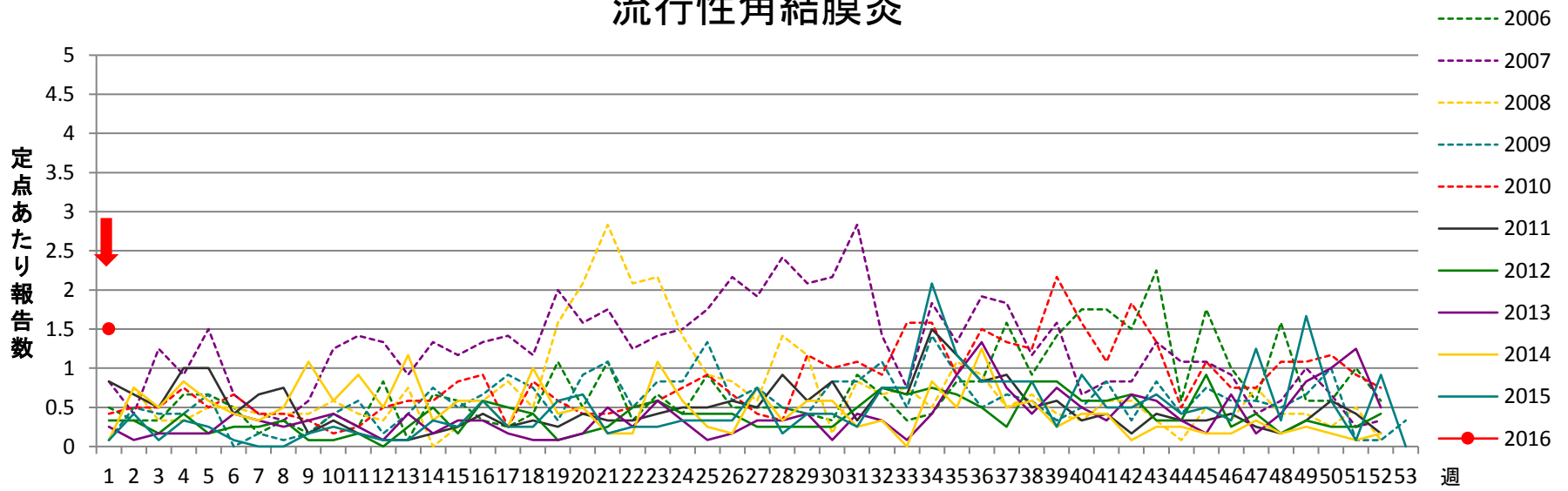
流行性耳下腺炎



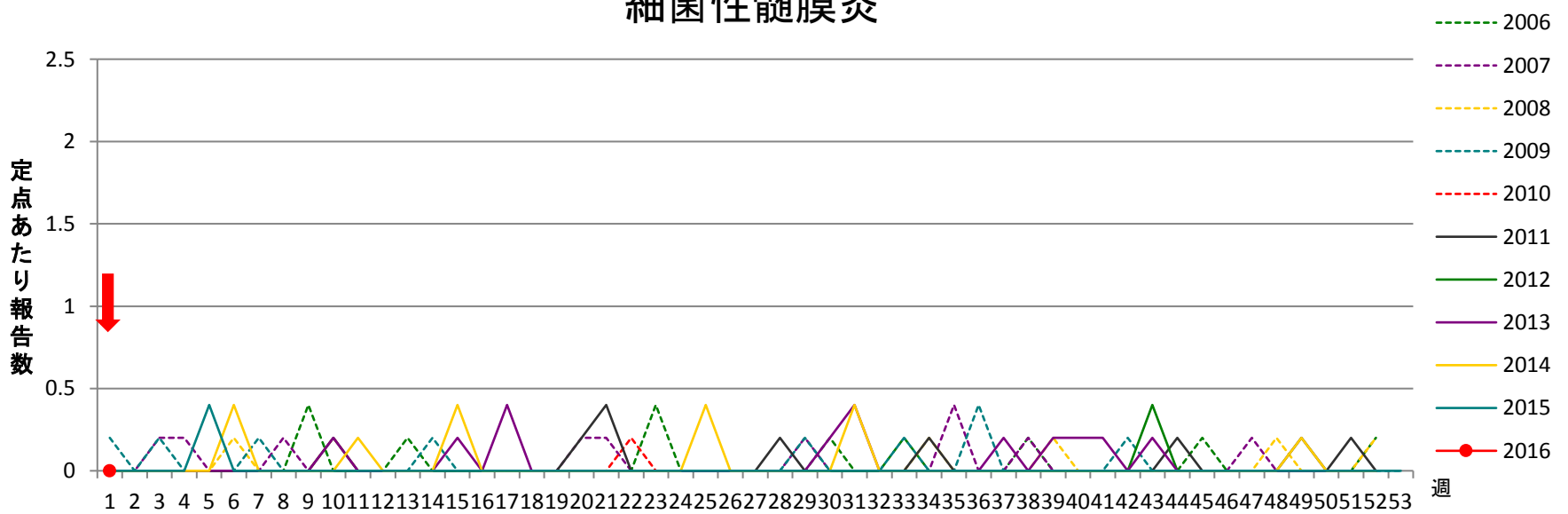
急性出血性結膜炎



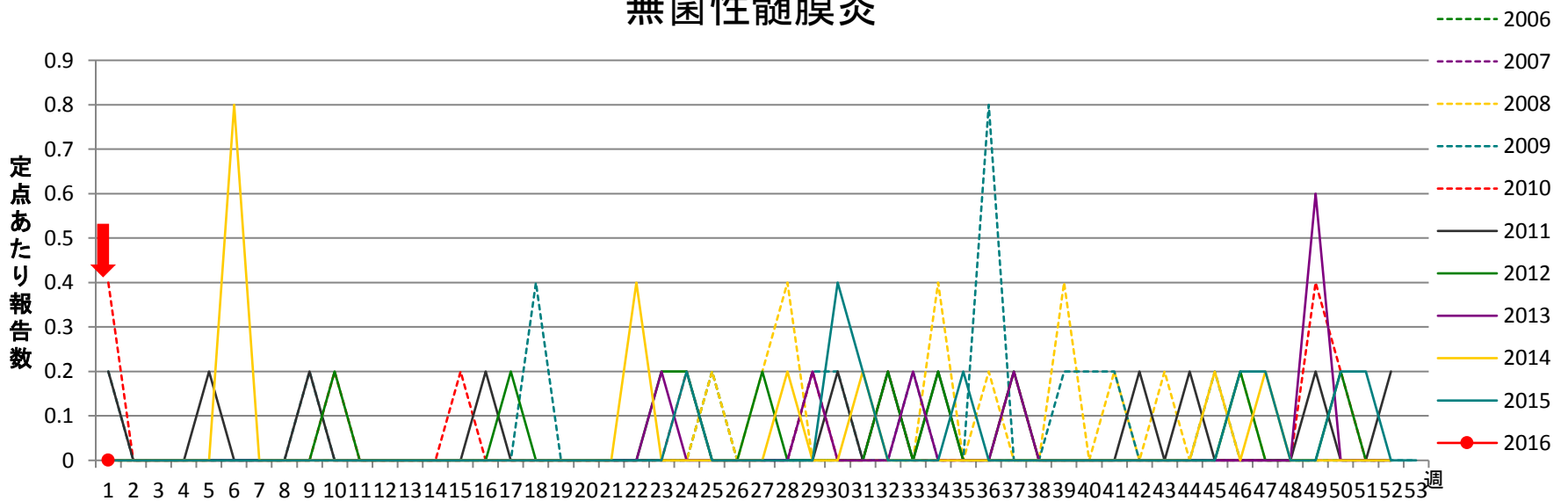
流行性角結膜炎



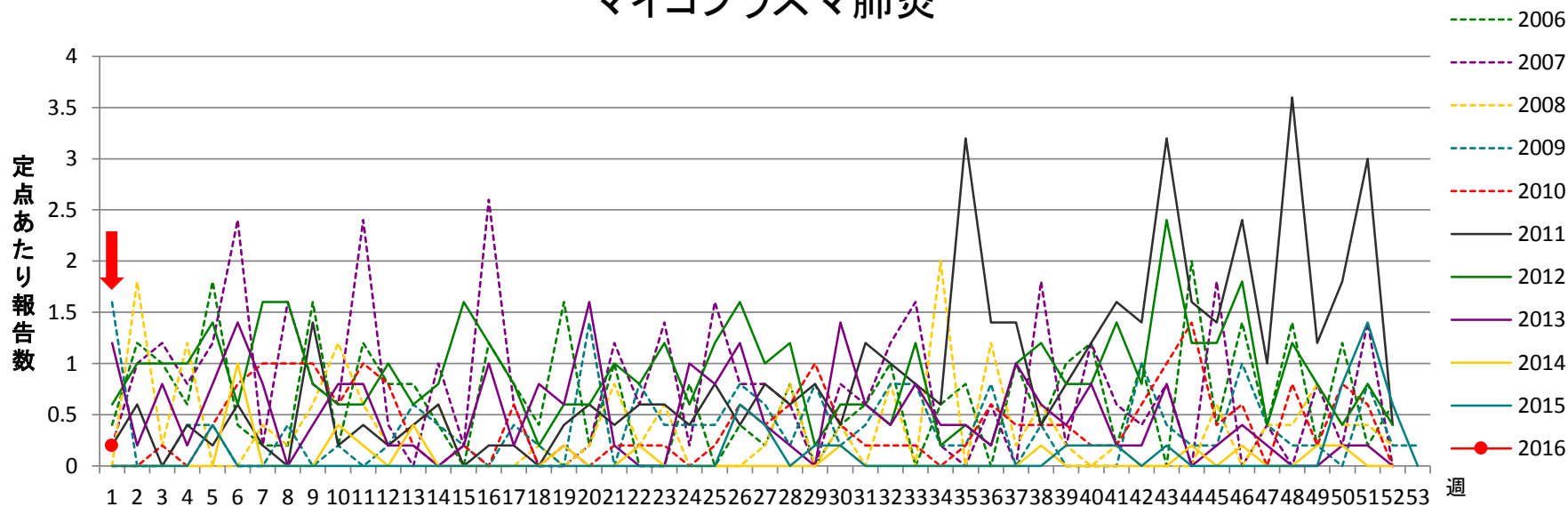
細菌性髄膜炎



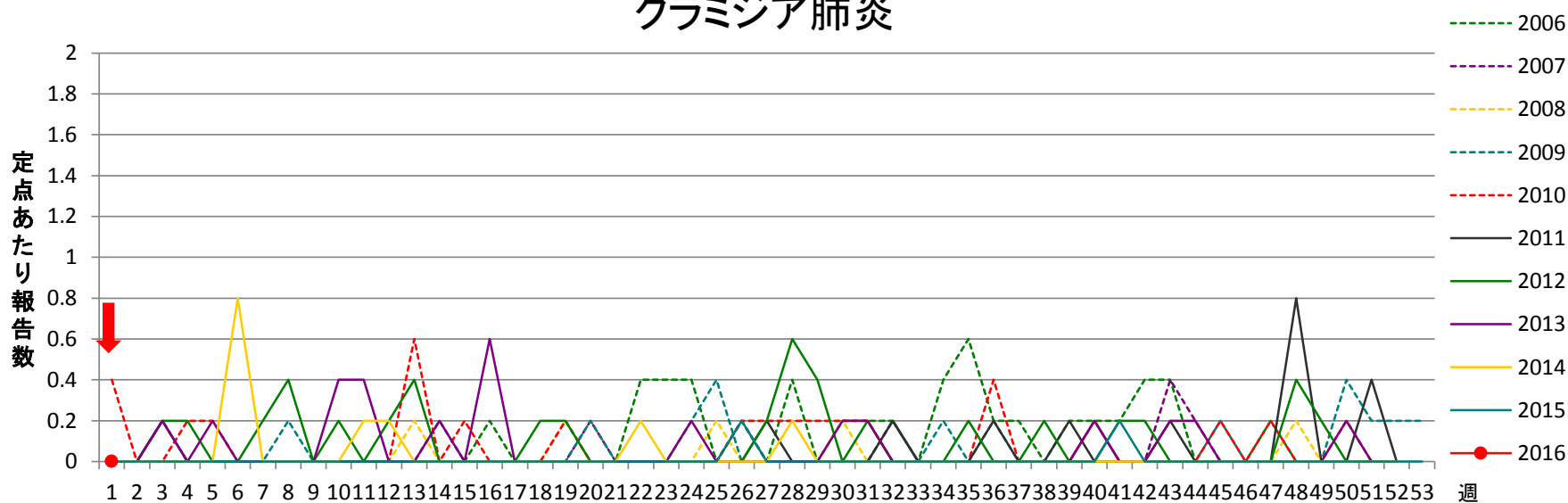
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

